

各ワーキング 令和6年度中間報告

I 福祉にフィットしない方たちの次の選択肢を考えるワーキング

1 目的

既存の福祉サービスに合わず行き場がなく安心できる居場所がない障害のある方を対象に、地域での支援の在り方や新たな地域資源について協議し、アイデアを創出する。

障害特性、当事者本人の意向、触法など様々な理由で就労継続支援B型など福祉的就労が合わず企業就労も難しいような、いわゆる狭間の障害当事者を対象に日中活動等の次の選択肢を検討する。

2 ワーキングにおいて取り組む主要内容について

昨年度まで学び、検討してきたことをふまえ、調布市でできる「就労体験・生活体験の場」について協議の上実践する。また、新たに事業を開始した「ワークライフカレッジすとおく」の取り組みを確認する。これまでのワーキングと実践の振り返りを行い、体験を重ねることで福祉にフィットしない方たちの次の選択肢となり得るような「居場所」について検討する。

3 ワーキンググループメンバー（敬称略）

座長 丸山 晃（立教大学 コミュニティ福祉研究所 研究員）
佐藤 裕香（社会福祉法人 調布市社会福祉協議会 調布市こころの健康支援センター 主事）
和泉 怜実（社会福祉法人 調布市社会福祉協議会 調布市子ども・若者総合支援事業ここあ 主任）
矢辺 良子（調布保護司会 副会長）
雨下 美香（特定非営利活動法人 調布心身障害児・者親の会 役員）
大澤 宏章（特定非営利活動法人 羽ばたく会めじろ作業所 施設長）
伊藤 巧（社会福祉法人 調布市社会福祉事業団 ワークライフカレッジ すとおく 主任）

4 今年度の検討経過

第Ⅰ回ワーキング

（開催日）令和6年6月14日（金） 14時から16時

（開催場所）ちょうふだぞう活動室

（出席者）委員7名 事務局7名

(内 容) 今年度のワーキングの方向性について生活・就労体験の検討・実施・振り返りとするを共有。また実際に体験する利用者についても併せて検討した。

(主な意見)

◎生活体験の場について

- ・社会体験する機会が足りていない。特に年齢を重ねるほど機会は減っている。
- ・すっとくの利用を通して社会体験を重ねることができるが、内容によって参加率に波があることが課題である。
- ・すっとくの講習会の参加率の波について、講習会の名前や内容に楽しさを織り込む等、工夫することで参加率の向上を図れないだろうか。人気のある講習会の内容と参加率が低い講習会の内容を混ぜても良いと思う。講習会を授業と呼び学校に通っているイメージにしてはどうか。
- ・家事等の生活訓練においての参加率について、一つの方法だけでなく、様々な選択肢を提案し、その人に合うものを探ることが重要ではないか。また、アイロンかけが苦手な方にしわの付きにくい素材の衣服を勧めることや、洗濯を畳むことが苦手な方にハンガーでの収納を提案する等、苦手なことを行わずとも解決する方法の視点も重要と意見が挙がった。
- ・無印良品や地域のスポーツジム等、地域貢献に前向きな民間サービスに協力を仰ぐ。整理収納やコーディネートのアドバイスや市の体育館もできると良い。
- ・神社やお寺等の宗教関連にも協力を仰ぎ、清掃体験を行うとお互いのニーズを満たせるのではないかと。
- ・トランプやゲームの得点係等、支援者の意図しないところでの楽しみややりがいを感じるケースが多々ある。

◎今後の展開について

- ・既存のものも含め、生活面と余暇面を中心としたプログラムを作成、実践し、今後のワーキングにて報告していく。体験する人については委員から推薦してもらい希望がない場合は事務局で選定する。
- ・就労についても同様に体験できる人とプログラムの検討をする。
- ・すっとく開所後、現状の活動報告を行う。

～第2回ワーキング～

(開 催 日) 令和6年8月27日(火) 14時から16時

(開催場所) ちょうふだぞう活動室

(出 席 者) 委員7名 事務局7名

(内 容) 生活体験、就労体験について進捗状況を共有。また実際に体験する内容、対象者についてもあわせて検討した。

(主な意見)

◎生活体験について

※前回のワーキングにて検討した、洋服のトータルコーディネート体験と教会の清掃体験。すとおくの実践報告について話し合いを行った。

- ・市内企業に協力をお願いした洋服のトータルコーディネート体験や教会での清掃体験の参加者は確定しつつあるが、あと数名候補者を検討していく必要がある。
- ・市内企業に協力をお願いした洋服のトータルコーディネート体験については見学希望を募り、体験しなくなった場合の当日参加枠があるとよいのではないかな。
- ・神社、教会の掃除体験をすとおくのプログラムに取り入れ、すとおく利用者に参加を促してみてもどうか。
- ・少しでも、お金をもらえるシステムがあれば参加者を募りやすいと思う。
- ・トータルコーディネート体験は第二回目の開催を想定し、今回の体験の様子を動画に収めていれば、次回参加者を募る際に有効であると思われる。

◎就労体験について

- ・MNH（市内でソーシャルビジネスを行う企業ですとおくで作業を請け負っている）は、様々な事業を行っているため、体験者によって異なる内容の体験を提供できるのではないかな。しかし利用者に提示する際には参加しやすいよう大枠の内容や例があった方がよい。金銭が出る場合、どの体験でいくら出るのかも提示する必要がある。
- ・体験を通して結果的に就労に繋がればお互いのニーズを満たせるのではないかな。
- ・体験者として保護観察中で障害があるかどうかグレーな方を保護司から紹介してもらうのはどうか。

◎今後の展開について

- ・次回ワーキングは洋服のトータルコーディネート体験が終了した後の12月に変更。体験内容や今後についての振り返りを行う。
- ・就労体験については、関心を寄せてくれる市内企業が2か所あり、事務局と仲介してくれた委員とともに訪問し、ワーキングの内容説明と体験について相談する予定。

5 今後の予定

第3回ワーキング 令和6年12月20日(金)

第4回ワーキング 令和7年1月22日(水)

6 年度内の到達目標

生活体験については①市内企業の協力による洋服のトータルコーディネート体験、②教会での清掃体験を実施し、振り返りを行う。また、すとおくの実践報告を行い、これまで福祉にフィットしなかった方のその後について共有・検討を行う。

就労体験については市内企業で短時間の就労体験を実施し、就労の可能性についても検討・振り返りを行う。

両体験についてワーキング内で今後の継続についても合わせて協議をしていく。

Ⅱ 学齢期の福祉教育を考えるワーキング

Ⅰ 目的

教育機関と福祉機関が協働で進める障害理解教育の教育内容，教育手法を検討することにより，調布市における障害理解（多様性を認め合う社会の実現）の発展を目指す。

Ⅱ ワーキングにおいて取り組む主要内容について

- ・調布市内の小・中学校に実施した調査結果をもとにヒアリング調査を行い，より深く福祉教育に対する教育現場の課題を具体化する。
- ・福祉教育の中で障害理解教育を実施する目的や意義，教育内容，教育方法について検討する。
- ・教育と福祉が協働で行う障害理解教育の運営方法について検討する。

Ⅲ ワーキンググループメンバー(敬称略)

座長 谷内 孝行（桜美林大学 健康福祉学群 准教授）
高江洲 幸男（当事者）
佐々木 翼（当事者）
樋川 宣登志（調布市立第一小学校 校長）
原田 勝（調布市教育委員会指導室 副主幹）
毛利 勝（特定非営利活動法人 調布心身障害児・者親の会）
田村 敦史（社会福祉法人 調布市社会福祉協議会 ボランティア・市民活動推進課長）
大光 加奈子（社会福祉法人 調布市社会福祉協議会 地域福祉推進課 在宅支援担当 障がい者支援係長）
吉野 強（社会福祉法人 調布市社会福祉事業団 調布市障害者地域生活・就労支援センター ちょうふだぞう 主任）

Ⅳ 今年度の検討経過

第Ⅰ回ワーキング

（開催日）令和6年6月10日(月) 18時から20時

（開催場所）空と大地と

（出席者）委員6名 事務局7名

（内 容）

- ① 今年度の，学齢期の福祉教育を考えるワーキングの目的・方針・成果目標を共有する。
- ② ヒアリング調査を実施する訪問校選びや質問項目についての意見交換をする。
- ③ 福祉教育（障害理解教育）プログラムについて，どのような方針で取り組むべきか，意

見交換をする。

(主な意見)

(1) 福祉教育（障害理解教育）のヒアリング調査について（調査項目も含め）

- ・東京オリンピックパラリンピックが開催される前は、ボッチャや車いすバスケットなど、パラリンピックにちなんだ内容が多かった。特別な予算がついていたため、力を入れるきっかけになっていた。
- ・福祉教育アンケートを実施した学校の中で、オリンピックやパラリンピック以外の内容で福祉教育に力を入れている小学校2校、中学校1校を対象にヒアリング調査を実施すると、どのような内容で行なっているのかを知ることが出来ると思う。
- ・福祉教育に取り組む時間数はクラス数の多さ、支援級の有無が影響すると思われたが昨年度のアンケート結果を見るとあまり影響はなかった。
- ・支援学級や特別支援学校との交流も福祉教育の一つである。
- ・福祉教育を継続的に実施するとした場合、方法やツール、手段などに焦点をあてて学校側に質問しても良いと思う。ヒアリング調査を行うことで、学校の現状を把握することが出来、教育と福祉の連携に繋がると良いと思う。

(2) 福祉教育（障害理解教育）プログラム案について

ア ねらい、目的

- ・60分の授業時間では「自分たちの住む社会には、さまざまな人がいることを知り、街にはまだ不便がある」に焦点を当ててみてはどうか。限られた時間で理解まで求めることは難しいと思う、90分は長すぎて児童の集中力に限界がある。

イ 導入

- ・障害の社会モデルの『障害』を最初から捉えることは難しい。『障害』を他の言葉に置き換えることで伝わりやすくなると思う。また、社会モデルの捉え方を伝える際にも伝えやすくなるかもしれない。
- ・運営方法や授業の進め方など、教育関係者に協力してもらいながら作成することにより、児童に興味を持ってもらえるプログラム作成につながると思う。
- ・小学校4年生には「障害」とは何かを伝えることは難しいと思うが、教師や運営側が障害の社会モデルのねらいを知っておくことは大切である。

ウ 授業内容

- ・昨年12月に小学4年生を対象とした第一小学校での授業は長時間のプログラムだった。この授業展開では児童の興味には繋がらないので、さらなる工夫が必要だと思う。
- ・当事者からの生の語りは大切であると思う。動画だと本来伝えたいことは伝わりにくいのではないか。どのような不便があるのか、どのような生活をしているのかなど、対話形式があった方が良い。
- ・実際、車いすに乗って操作をすることで、体験を通じて社会の側の「障害」の存在を知ることが出来ると思う。
- ・体験内容も疑似体験ではなく、「椅子を並べて、映画館の車いす席がないバージョンを再現する。車いす利用者がどのように利用するか、クイズ形式で実施する」や

「当事者2名と児童が自動販売機で飲み物を購入するなど。それぞれの不便や工夫点等を比較しやすい状況を作る」等、があると具体的な気づきとなる。

(まとめ)

昨年実施した福祉教育アンケートをもとに福祉教育の実施時間が多かった学校を対象にヒアリング調査を行うことになった。調査では、福祉教育の運営方法や取組内容、現在課題と感じている内容などを中心に実施する。また昨年度、小学4年生を対象に実施した福祉教育のプログラムについては内容が難しかった部分があったため、時間配分や言葉選び等、教育分野の先生方の意見を伺いながら作成する。

5 今後の予定

第2回ワーキング 令和6年9月25日(水)

(内容) 福祉教育アンケートヒアリング調査、福祉教育(障害理解教育)プログラムの作成

6 年度内の到達目標

- ・教育機関に対するヒアリング調査を実施し、障害理解教育の現状をより具体的に把握する。
- ・「障害の社会モデル」を踏まえた障害理解教育の教育目標、教育内容、教育方法について検討する。

Ⅲ 医療と福祉の相互理解についてのワーキング

Ⅰ 目的

令和４年度に行った「障がい当事者及び家族と医療機関それぞれの現状と課題を把握するためのアンケート」の結果、回答者の８割がかかりつけ医を持っており、医療機関に対する評価が高かったが、２割の方は病状の説明や医師からの説明が理解できない等受診への困難さを感じていたことが明らかになった。

今年度のワーキングでは、医療機関側の障がい理解の姿勢が、障害のある方の安心感へとつながるため、障がい特性や配慮のポイントを記載したパンフレットを作成と障がい当事者の健康診断についての課題が多いため、あわせて協議をすすめていく。

２ ワーキングにおいて取り組む主要内容について

当事者・家族並びに医療従事者向けアンケート結果を踏まえて、当事者の受診について受け入れ促進要件や阻害要件を明らかにしていき、解決方法等について検討していく。

３ ワーキンググループメンバー（敬称略）

座長	山本 雅章	（社会福祉法人 調布市社会福祉事業団 業務執行理事）
	荒井 敏	（公益社団法人 調布市医師会 会長）
	西田 伸一	（医療法人社団梶社会 西田医院 理事長）
	伊藤 文子	（一般社団法人 子どもプライマリケアサポートかしの木 代表理事）
	進藤 美左	（特定非営利活動法人 調布心身障害児・者親の会 会長）
	富澤 敏幸	（調布市身体障害者福祉協会 副会長）
	愛沢 法子	（当事者）
	井村 茂樹	（調布市聴覚障害者協会 会長）
	江頭 由香	（調布市精神障害者家族会 かささぎ会 会長）
	秋元 妙美	（一般社団法人障がい者自立相談支援協会 CIL ちょうふ 代表）
	栗城 耕平	（社会福祉法人 新樹会 地域生活支援センター希望ヶ丘 施設長）
	円舘 玲子	（社会福祉法人 調布市社会福祉事業団 調布市障害者地域生活・就労支援センター ちょうふだぞう 施設長）

４ 今年度の検討経過

第Ⅰ回ワーキング

（開催日）令和６年７月１８日（金） 午後６時から８時

（開催場所）調布市総合福祉センター ２０１～２０３号室

（出席者）委員１１名，事務局７名

（内 容）

- ①今年度の方針について
- ②パンフレット案について構成の説明
- ③パンフレット案についての意見交換
- ④健康診断について

(主な意見)

◎今年度の方針について

◎パンフレット案について

- ・全20ページ。障害別の困りごとや配慮点を記載。発達障害、高次脳機能障害、失語症を加筆し、最後に個人の障害の記入欄を設けた。
- ・医療機関に広く提供し、障害のある方が安心して通院できるよう相互に理解することが目的
- ・医療機関を中心に当事者にも配布する予定。インターネットからダウンロードできるようにしたい。
- ・情報量は多くならないように配慮し、必要なポイントを絞って記入する。
- ・医療機関側としては障害の程度と特性を知りたい。問診票とは別の情報シートがあるといい。
- ・A4サイズ1枚程度で最低限の障害特性を記入できるシートが良い。
- ・視覚障害のある方は記載が難しいので、聞き取って代筆してほしい。事前に記載できるものがあるとなお良い。
- ・相談支援事業所の役割としては、シートの記入が必要な方にアナウンスし、シートの記載を支援する必要がある。
- ・「してほしい」という要望の形ではなく、「医療機関と一緒に作り上げていく表現にしたい。
- ・配慮してくれて嬉しかったエピソードを掲載する。QRコードで事例をもっと見られるようにできると良い。
- ・パンフレットの発行元に関しては調布市と自立支援協議会の連名にしたい。
- ・最終的な監修を医師会に依頼したいので、医師会の協力があつたことを入れたい。
- ・在宅医療相談室の案内のページに相談支援事業所の連絡先を掲載できると良い。
- ・編集のスケジュールの確認。現在業者の選定を行っている段階。年内にパンフレット案を作成し、印刷する予定。年度内に医師会の医師に紹介したい。

◎健康診断について

- ・学校や職場に所属している方は年1回健康診断を受けているが、就労継続B型事業所の利用者には健康診断が義務付けられていない。国民健康保険や生活保護の方は40歳以上の無料の特定検診を受けることができるが、実際には受けられていない方が多い。
- ・令和6年11月以降に青木病院にて1～2か所の作業所の利用者に来てもらい、特定検診を実施
- ・吉祥寺病院と東京さつきホスピタルには見学してもらい、次年度以降に検診を実施できるか検討してもらう

(まとめ)

- ・パンフレットは多くの医療関係者に見ていただき障害のある方について理解を得られるものにしたい。QRコードで注釈が見られるようにできると良い。
- ・秋元委員が作成した自身の障害や配慮してほしい点を記入できるシートが非常にわかりやすいので、そちらを参考にして個人で記入できる情報シートを作成する。
- ・各委員が障害ごとのページの見本を作成し、より実用的なものを作成したい。

5 今後の予定

第2回ワーキング 令和6年 10月31日(木)

第3回ワーキング 令和6年 12月12日(木)

年明けから年度末の間で、作成したパンフレットについて医師会所属の医療機関にむけて説明を行う場を検討中。

6 年度内の到達目標

- ・障害当事者の医療アクセスへの促進として、医療機関の方への障害理解を促進するための医療アクセスに向けてのパンフレットを作成していく。
- ・医療アクセスへの課題として病気の早期発見や未然に防ぐ健康診断を受けられるように健康診断受診時の課題解決の方法や配慮点等を協議する。

Ⅳ サービスのあり方検討会

Ⅰ 目的

市内の特定相談支援事業所の相談支援専門員は、権利擁護の視点を大切にし、個別支援の実践とともに社会環境の調整を行い、利用者の意思を決定するための支援をするとともにそのニーズをアセスメントし代弁する役割がある。

この連絡会は、相談支援専門員のケアマネジメント能力の向上と均質化、調布市におけるサービスの支給決定の考え方の共有、情報交換等を図り、ひとりひとりの尊厳のある暮らしが満たされる社会を構築することをめざし、よって障害者福祉の増進に資することを目的とする。

2 出席者（開設順）

調布市内の指定特定相談支援事業所（13事業所）の相談支援専門員

- (1) 銀河ケアサービス
- (2) 地域生活支援センター希望ヶ丘
- (3) 相談支援事業所ドルチェ
- (4) ちょうふだぞう
- (5) 調布市福祉健康部障害福祉課
- (6) 調布市子ども発達センター相談支援事業所
- (7) 障害者自立相談支援協会
- (8) 調布市こころの健康支援センター
- (9) 合同会社マーレ相談支援事務所
- (10) シエル相談支援センター
- (11) KIZUNA 相談支援センター調布
- (12) ポコポコ・ホッピング神代団地

3 開催実績

第1回 令和5年5月20日(月)

(内容) 自己紹介, 事業所紹介, 今年度の取り組みについて

今年度取り上げたい内容について提案し、昨年度から引き続き深めていきたいことも踏まえ、今年度の取り組みについて検討した。

第2回 令和6年7月8日(月)

(内容) 安否リスト, 災害時の避難計画について

調布市障害者（児）地域生活支援拠点連絡会（第1回目）

今年度から、令和元年度の「非常時の地域ネットワークづくりワーキング」で作成したサービス等利用計画と連動した災害時の支援計画を、サービスの支給決定更新時に作成することになった。運用する中で相談支援専門員が感じたことなどを発言してもらい、共有した。

4 今後の予定

第3回 令和6年9月9日(月)

(内容) 事例検討会①

第4回 令和6年11月18日(月)

(内容) 医療的ケア児の支援機関について理解を深める

第5回 令和7年1月20日(月)

(内容) ①調布市障害者(児)地域生活支援拠点連絡会(第2回目)

②障害者虐待防止センターの役割について

第6回 令和7年3月17日(月)

(内容) 事例検討会②